様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月　３ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ０４２６２

研究課題名（和文）第二次大戦期アメリカ日系宗教の二世教育活動

研究課題名（英文）Educational Works of Japanese American Religious Groups among their Second Generation Groups During World War II

研究代表者
吉田　亮（Yoshida, Ryo）

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：００２２０６９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は等閑視されてきた第二次大戦期、収容所外でのアメリカ日本人移民（日系人）教育活動の歴史を実証的に明らかにすることを目的とする。特に地域差、宗教差に着目した。その特徴は、まず、地域差・宗教差を越えて、日系団体は日系人のアメリカ化啓発活動を通じて民族的生き残りを進めた。次に、収容所以外のハワイ、シカゴ、ニューヨーク、抑留キャンプにおいては、日系主導の活動が見られ、戦時下にあってその主体性自主性を社会にアピールしていたこと。さらに、民族コミュニティ・文化（宗教）の存続展開のためにアメリカ化活動を積極活用していたこと。最後に、本土のシカゴ、ニューヨークでは世代や人種を越えた連携が模索された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第二次大戦期アメリカ日系人の教育活動を、強制収容所内という限定を外し、ハワイを含む全米規模で考察することで、規定要因の違いを越えた共通性や地域差・宗教差による相違点が明らかにされる。まず前者については、民族生き残り、民族的主体性・自主性のアピールの場としてアメリカ化活動の展開に共通性が見いだされる。次に後者については、ハワイは全人口に占める日系人口数の比率が本土比較にならないほどに大きく、そのこともあって世代・宗教の分断状況がみてとれる。人口数が限定的であることもあり、シカゴやニューヨークではそれとは反対に世代・宗教・人種連携状況にあった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to demonstrate how Japanese Americans developed the eduational works among their compatriots who were not relocated in Hawaii and the U.S. during World War II.This study particularly focused on both geographical and religious differences.Fist of all, These Japanese Americans lived in Hawaii, Chicago, New York, and even Internment Camp concentrated in Americanizing those compatriots for their ethnic survival. In other words, they did not attempt to assimilate to the larger society. Second, their activities had autonomous, independent-minded characters so that they aggressively proved themselves as American citizens. Third, they took advantaged of Americanization works to continue and develop their ethnic community and culture (including religion). Finally, those who lived in Chicago and New York pursuited the trans-generational, trans-racial activities.

研究分野：教育社会史

キーワード：アメリカ日系人　アメリカ化教育　越境教育　キリスト教　仏教　第二次大戦　ハワイ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

従来，第二次大戦期の日系二世教育に関する歴史研究は、収容所内での公教育・日本語教育、及び再定住許可が出た二世大学生を対象とした高等教育のみに限定され論じられてきた。代表的な研究は以下のとおりである。Thomas James, *Exile Within: The Schooling of Japanese Americans, 1942-1945* (1982)は、収容所内の公立初等、中等教育での進歩主義的実験、及びツールレイク隔離収容所内の日本語教育におけるナショナリスティックな傾向について論じている。

島田紀子「第二次世界大戦下の二世教育」（吉田亮編著『アメリカ日本人移民の越境教育史』）は収容所内の公教育に限定し、進歩主義的実験の実態について分析している。日系大学生の東部諸大学への転入に関しては、Gary Okihiro, *Stories Lives: Japanese American Students and World War II* (1999)及びAllen W. Austin, *From Concentration Camp to Campus: Japanese American Students and World War II* (2004)が、高等教育と二世大学生の再定住が、学生自身と社会全体に及ぼした意味について検討している。島田紀子『戦争と移民の社会史』（2004）は戦時下にハワイで独自に継続を続けた日本語学校を紹介している。

宗教史研究分野では、Tetsuden Kashima, *Buddhism in America* (1977)が収容所内での仏教青年会の活動を紹介し、Akihiro Yamakura, “The United States-Japan War and Tenrikyo Ministers in America”(in Ryuken Williams, Tomoe Moriya, *Issei Buddhism in the Americas*, 2010)が、天理教指導者の拘留過程を論じ、Lester E. Suzuki, *Ministry in the Assembly and Relocation Centers of World War II* (1979)は各収容所内でのキリスト教会の活動を概観し、高橋典史『移民、宗教、故国－近現代ハワイにおける日系宗教の経験』(2014)は日系仏教及び天理教がハワイで受けた活動規制について、島田紀子『戦争と移民の社会史』（2004）は戦時中にハワイで礼拝を継続した仏教会を紹介する。

これらの先行研究は、両分野において、アメリカ化や日系文化化という二重の役割について示唆を与えるものではある。しかし、①アメリカ本土の研究は収容所内の教育、宗教に限定しており、収容の対象とならなかった中東部、東部については未踏査の領域である。②ハワイにおいては、移民一世を対象にした研究に限定されている。③全体として移民一世が二世教育において重視した道徳教育の視点が考察対象とされていない。

２．研究の目的

本研究では，第二次大戦時期のアメリカ日系宗教特にキリスト教と仏教、天理教団体による二世教育活動の特徴を解明する。大戦前の30 年代において、日系二世に対する教育活動は、公教育とそれを補完する日本語学校、さらには日本研修旅行や日本留学というように、日米両地域の多様な教育機関を巻き込んだ形で展開していった。

教育活動を担う団体も、州公教育局、日本語教育協会だけでなく、キリスト教及び仏教会、さらには日本国内の諸学校、日本国政府と多様化していった（吉田亮編著『アメリカ日本人移民の越境教育史』2005、『アメリカ日系二世と越境教育』2012 参照）。1941 年、日本軍による真珠湾攻撃とともに、状況は一転し、日本語学校は閉鎖され、1942 年には太平洋岸の日本人移民及び二世は「敵国外国人」として、米国陸軍戦時転住局が管轄する転住所に送られ、1943 年以降に一部は再定住して東海岸に移住することにはなるが、大半は終戦までの生活を余儀なくされた。しかし、西海岸以外の地域に居住する日本人移民及び二世は強制収容の対象とされることはなく、規制を受けながらも、当該地域での生活を続けた。日本語学校が閉鎖された後、二世教育を担い得たのは、日系宗教団体であった。日系宗教団体はそれぞれ独自に教育活動を展開することになった。

本研究では、同時期の教育活動を特徴づける、アメリカ化教育，道徳教育，日系文化教育に焦点をあてて分析をする。宗教団体としては、キリスト教、仏教、天理教であり、地域としては、ハワイ、中東部（シカゴ）、東部（ニューヨーク）という三地域の比較をも行う。

a)アメリカ化教育：戦前期から日系宗教団体が二世教育の主軸としてきたのは、青年会組織であった。大戦中も、青年会は教育活動の中心にあり、アメリカの理念、民主主義について、諸活動を通じて実践的に学習する機会を一貫して提供してきた。これらの活動については、ハワイのVarsity Victory Volunteers（二世大学生を含む戦時協力団体）以外はほとんど解明されていないので、3地域の宗教団体毎に青年教育の特色を明らかにしていく。

b)道徳教育：移民一世は、二世に対するアメリカ市民教育に関し、道徳教育を一貫して重視してきた。戦時下において日本語学校が機能しない状況にあって、日系宗教団体に対する期待は大きかった。一方，日系宗教団体は宗教的信条に基づく道徳心をもつアメリカ市民を育成するための教育プログラムを第二次大戦前まで展開して来ており、戦時下においてもその方向性に変化は無かった。しかし、先行研究においてそのような視点をもつ研究が無い現状において、研究の意義は極めて高いといえる。「敵性外国人」とされた日系二世に対して、どのようなアメリカ市民としての道徳性を求める教育を行ったのかを検討することになる。

c)日系文化教育：30 年代において日米両国を含んで大きく拡大した日系文化教育は、戦時下に規制を受け、日本語学校はその影響力を縮小し、あらゆる「日本的なもの」が監視・弾圧の対象となった。日系宗教団体は、数少ない日系文化継承機関としてどのよう二世教育活動を行ったのかについては、未踏査の研究領域であるので、本研究でその内実が分析対象となる。

３．研究の方法

本研究を進めるにあたって以下のような研究計画をたてた。各自の分担テーマに即して文献や史料の調査，蒐集及びそれらの分析を独自に行う。最初の三年間については，毎年8 月に研究合宿を開催し，各自が調査分析した内容を発表し，他の分担者との討議によって分担者全員が知見を共有できるようにする。合宿で毎年の研究成果を総括し，研究全体を深化させるために各自及び全員が取り組むべき課題を打ち出し，各自が持ち帰って検証する。最後の４年目に，研究叢書出版のための研究合宿を開催し，各自の分担テーマの調整を行い，分担論文作成に取りかかる。研究の土台となる資料については，各地の大学図書館、日系博物館，個別日系キリスト教、仏教、日系新宗教機関での資料調査に基づいて蒐集する。

４．研究成果

吉田の研究は、再定住地ニューヨークの日系キリスト教会がどのように日系人社会と文化を維持発展させるために、積極的なアメリカ化啓発活動を主導し、その活動内に日系キリスト教道徳と日系文化を組み込んで、日系市民を育成しようとしたかについて論じるものである。日系キリスト教会は意図的に地域内の日系住民および日系再定住者への救援･教育活動、さらに祖国日本再興のための救援活動を担うことがアメリカ化活動であると解釈し、日系キリスト教の主体性･自主性を現地社会にアピールし続ける方法をとることで、日系民族社会と文化を残しながら現地社会への貢献を進めることに成功した。時には世代や人種を越えた連携を進めることで、日系の存在感をより強く証明しようとしたとする。

物部の研究は、ハワイにおいて日系二世男子によって組織･運営された民間団体の非常時奉仕委員会に焦点を当てて、その活動を考察した。先行研究ではハワイの日系社会とアメリカ軍･政府との仲介者として位置付けられ、日系人の戦時協力を先導した極めてアメリカ愛国主義的な団体とされてきたが、本研究では、実は委員会のメンバーのアイデンティティは日米間で揺らいでおり、当初は日本文化を容認する姿勢を持っていたが、戦局でアメリカが優勢になるにつれて 100 パーセントアメリカニズムを

全面的に打ち出すように変容していったと考えた。ハワイ大学の図書館やアーカイブスを中心にリサーチを行い、非常時奉仕委員会の准州会議の議事録やミーティングのレポートの分析を試みた結果、予想に反し、先行研究との決定的な相違点は見られなかった。しかしながら、リサーチからは、これまで考えられてきたように一枚岩の団体ではなく、意見や立場の異なるメンバーの対立があり、委員会に対する期待も異なり、それがメンバーの頻繁な入れ替わりに繋がり、活動にも影響があった可能性があることが明らかになった。

竹本の研究は、米本土の抑留センターを舞台に、一世日本語教育指導者(杉町八重充)が、日本語学校が閉鎖され、日本語教育が規制を受ける戦時下にあって、日本語教育による市民形成をどのように進めようと考えていたかについて論じるものである。杉町は、日系市民育成のための日本語教育プログラム開発に尽力してきたにもかかわらず、国家主義によって抑留所に収監され、米国への失望感を胸に、抑留所内の外国人子弟や二世に対する日本語教育に従事した。杉町は、抑留所当局と子弟(二世)の仲介者として、当局を説得し、協力を得ながら、日本語教育による市民形成に尽力した。国家主義の同化圧力下にあっても、敵性言語を、抑留所の子どもたちに教え続けた。戦後、杉町は原点に再度立ち、日本語と道徳を一体化した人格形成プログラムによって、多人種社会に生きる二世市民育成に努めていったとする。

本多の研究は、再定住地シカゴを舞台に、日本産で、日本語を使い、日本の本山との関係のもとに展開してきた越境宗教である仏教が、キリスト教が主流宗教の国で、しかも日系人を敵性外国人視する状況にあって、どのように二世の市民形成に寄与していったかを論じるものである。シカゴの二世仏教徒は、国家主義による強い規制を受けるが、西海岸の都市ではなかったこと、政府による再定住政策への協力と憲法が保障する権利の行使によって、米国仏教会としての地位を確立するまでに至った。国家主義による同化圧力に対しては、強い葛藤や圧力を経験することはなかった。むしろ、元来、仏教は自身の米国での新展開のために独自に「キリスト教化」(超宗派、組織運営、礼拝様式他)することで再定住日系人と現地社会との仲介者となることで、米国仏教として展開していったとする。

高橋の研究は、ハワイを舞台に、仏教やキリスト教とは違い、日本の教団本部と濃密な越境的関係を維持しながらも、日系社会内の周縁に位置した神道系新宗教(天理教、金光教)が、どのようにしてその越境性を否定され、また戦後それを回復していったかについて論じるものである。ハワイの神道系新宗教は、国家主義によって強い弾圧を受け、活動停止・指導者の収監の処分を受け、当該文化の継承を断念せざるを得ない状態となった。二世も例外ではなく、親からの宗教文化継承は望めないものとなった。国家主義から来る同化圧力によってその越境的特性は否定され、利害対立する複数集団間の仲介者となれる状況はそこには存在しなかったとする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 吉田　亮	４．巻 27
２．論文標題 第二次大戦期アメリカプロテスタントの日系人「社会統合」活動－ニューヨーク日系アメリカ人教会委員会による日系人再定住支援活動－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 教育文化	６．最初と最後の頁 1，29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉田　亮	４．巻 28
２．論文標題 湯浅八郎と第二次大戦期アメリカ日系人の強制収容	５．発行年 2019年
３．雑誌名 教育文化	６．最初と最後の頁 27，55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉田亮	４．巻 27号
２．論文標題 第二次大戦期アメリカプロテスタントの日系人「社会統合」活動－ニューヨーク日系アメリカ人教会委員会による日系人再定住支援活動－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 教育文化	６．最初と最後の頁 1,29頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋典史	４．巻 －
２．論文標題 昭和戦前期の仏教界と海外日系移民――二世の見学団、日本留学、修学団を中心に	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『国家神道と国体論に関する学際的研究―宗教とナショナリズムをめぐる「知」の再検討―』（日本学術振興会平成27～29年度科学研究費助成事業（基盤研究（Ｃ））、成果報告書	６．最初と最後の頁 242,255頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 本多彩	4．巻 386
2．論文標題 アメリカ仏教会における食文化の変遷	5．発行年 2016年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 157-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 高橋典史
2．発表標題 昭和前期の宗教者における日系移民と国家帰属
3．学会等名 日本宗教学会
4．発表年 2017年

1．発表者名 本多彩
2．発表標題 アメリカに移民した日本人女性たちと仏教
3．学会等名 第24回日本近代仏教史研究会研究大会
4．発表年 2016年

〔図書〕　計2件

1．著者名 本多彩、那須英勝、碧海寿広	4．発行年 2019年
2．出版社 法蔵館	5．総ページ数 262
3．書名 現代日本の仏教と女性―文化の越境とジェンダー	

１．著者名 吉田亮	４．発行年 2020年
２．出版社 現代史料出版	５．総ページ数 204
３．書名 変容する「二世」の越境性ー1940年代日米布伯の日系人と教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	物部　ひろみ (Monobe Hiromi) (10434680)	同志社大学・グローバル地域文化学部・准教授 (34310)	
研究分担者	竹本　英代 (Takemoto Hideyo) (50294484)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究分担者	高橋　典史 (Takahashi Norihito) (50633517)	東洋大学・社会学部・教授 (32663)	
研究分担者	本多　彩 (Honda Aya) (90584798)	兵庫大学・共通教育機構・准教授 (34524)	